



おしりの穴あなは小さいちいのに、どうして大きなうんちおおが出るでの

うんちをするあなときは、おしりの穴ひろが広がるため

おしりの穴あな（こう門もん）は、ふだんは閉とじていて小ちいさくなっています。しかし、うんちが
出でるときには広ひろがるため、大きなうんちも、出でることができるのです。これは、口くちをすぼめ
たときと、大おおきなものをほおばるときに、口くちを大おおきく開あけるのと、同おなじようなことです。

おしりの穴あな（こう門もん）には、括約筋かつやくきんという筋肉きんにくがあり、ふだんは閉とじているため、まわり
には、たひろくさんのひだひろができています。うんちをするときは、これが広ひろがるのです。

こう門もんのしくみとはたらき

わたしたちが食たべた物ものは、胃いと十二指腸じゅうにしちょうで消化しょうかされ、小腸しょうちょうに入はいっていきます。小腸しょうちょうで
は、食たべ物ものの中なか、栄えい養ようを吸きゅう収しゅうします。次つぎの

大腸だいちょうでは水すい分ぶんが吸きゅう収しゅうされて、残のこったかすは、う
んちだいべん（大だい便べん）として出だされます。しかし、だから
といって、うんちだいべん（大だい便べん）は、いつも出でているわ
けではありませな。体からだの中なかでできたうんちだいべん
を、ただめたり、出だしたりするのを、調ちょう節せつしている
のが、直腸ちよくちようとこう門もんなのです。こう門もんのおくのと
ころには、うんちだいべん（大だい便べん）の出で口かいの開かん閉りを管かん理りする、
筋きん肉にくがありますし、こう門もんには、2種類しゅるいの括約筋かつやくきんと
いう筋きん肉にくがあって、うんちだいべん（大だい便べん）の出でるのを、調ちよう
節せつしているのです。（監修・保志 宏）

